

2 - 5 . 北九州市

|     |   |      |
|-----|---|------|
| No. | 5 | 北九州市 |
|-----|---|------|

1. 取組の全体像

1. 自治体の概要

|   |        |                              |  |       |                        |
|---|--------|------------------------------|--|-------|------------------------|
| ① | 自治体名   | 北九州市（福岡県）                    | ②  | 担当部局名 | 保健福祉局 地域福祉部<br>地域福祉推進課 |
| ③ | 人口     | 939,029（人）<br><令和2年10月/国勢調査> |  |       |                        |
| ④ | 自治体内連携 | 庁内連携部局                       | 孤独・孤立対策推進のための庁内関係課長連携会議（8局12課）   |       |                        |
|   |        | 庁内連携内容<br>※会議体、情報共有          | <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年7月に関係課長会議を発足。</li> <li>社会的な孤独・孤立の問題について、市役所全体として総合的かつ効果的な対策を検討・推進する。</li> </ul> |       |                        |

2. 形成をめざす地方版連携PFの姿

|   |                                     |  |                          |                         |
|---|-------------------------------------|--|--------------------------|-------------------------|
| ① | 従前の取組<br>※重層の取組、外部組織連携、地域・コミュニティ形成等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>北九州市では、以前より孤独・孤立対策につながる取組を複数実施。</li> <li>孤独・孤立対策を推進するために、令和4年2月に、NPO法人等15団体で孤独・孤立官民連携プラットフォームである「北九州市孤独・孤立対策等連携協議会」を開設。これまでに3回協議会を開催済み。</li> </ul>  |                          |                         |
|   |                                     |  | 以前から取り組んでいたこと            | PF構築に向けて取り組んだこと         |
|   |                                     | 調査   | ・ -                      | ・ -                     |
|   |                                     | 構想・方針  | ・ 北九州市地域福祉計画             | ・ 孤独・孤立に関する意見交換会（令和3.7） |
|   |                                     | 体制   | ・ いのちをつなぐネットワーク事業（平成20～） | ・ 連携協議会の開催（令和4.2）       |
|   | 評価・検証等                              | ・ 北九州市社会福祉審議会  | ・ -                      |                         |
| ② | 実現したい状態<br>※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境  | <ul style="list-style-type: none"> <li>継続的な活動により、孤独・孤立協議会が、意義あるものとして持続していく。</li> <li>縦割りを解消し、行政と民間団体が横でつながる仕組みを構築する。</li> <li>支援が必要な本人や家族が、必要な支援につながり、その支援が途切れないようにつながっていくようにする。</li> <li>上記を実現するために、日頃から支援者同士が顔の見える関係性を構築する。</li> </ul> |                          |                         |

3. 地方版連携PFにおける連携体制

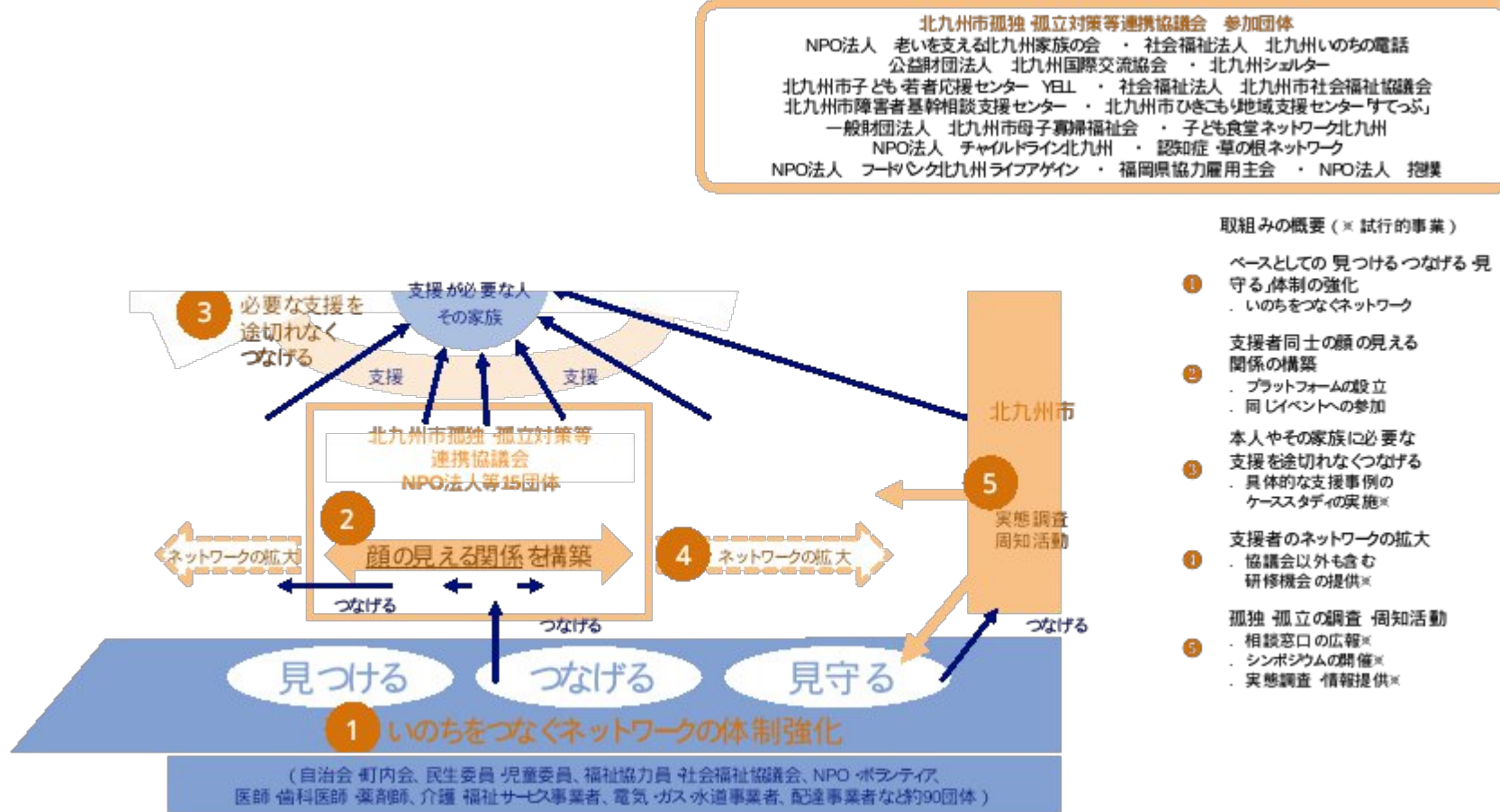
|   |            |  |            |    |
|---|------------|--|------------|----|
| ① | 連携先支援団体名   | 北九州市で活動するNPO法人等15団体  |            |    |
|   | 選出・打診時の工夫  | ・ 国の孤独・孤立フォーラム参加団体を中心に各分野の支援団体を選出  | 協議体（既設/新設） | 既設 |
| ② | 支援団体との連携内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>支援団体同士の相互理解を深めるためのケーススタディや研修会の開催。</li> <li>フードパントリーなどの支援イベントに共同で参加し、顔の見える関係、連携強化を図る。</li> </ul> |            |    |

4. PF連携による価値や工夫\_考え方

- 支援者同士が成功事例や失敗事例の紹介、実際のケースでの連携ができるように、ケーススタディを開催する。
- 協議会ではお互いの団体を知ること、顔の見える関係性、信頼できる関係性の構築を目指す。そのような関係性がないと、支援が必要な人を紹介することはできない。
- ケーススタディはオープン形式（講座形式）で実施し、各団体の現場スタッフも参加できるようにする。
- その他、協議会以外の支援者への研修機会等も確保する。

## 2. 連携PFイメージ

### 5. 連携プラットフォームのイメージ図



#### (連携プラットフォームの内容説明)

①北九州市では、既存の「いのちをつなぐネットワーク」という、孤独・孤立に対して、日常の中で“見守る”、“見つける”、そして必要があれば支援に“つなげる”というセーフティネットワークがある。「いのちをつなぐネットワーク」を基盤として、つなげる支援先に北九州市や今年度設立したPFである②連携協議会があるという体制である。

就労支援の先には就労先での人間関係の構築支援が必要となるなど、支援においては③必要な支援が途切れなくつながっていくことが重要であり、今回の連携協議会では、支援者同士が顔の見える関係性を構築することで、支援をつないでいくことを実現する。

連携協議会は、現在15団体で構成されているが、今後は④支援者のネットワークを拡大していく予定である。

今年度事業においても連携協議会外も含む研修会等を開催している。自治体においては④実態調査や周知活動などを実施しつつ連携していく。

### 3. 試行的事業一覧

#### 6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

|               |   |
|---------------|---|
| 試行的事業のポイント・工夫 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携PFにおける連携を現場で役に立つものとするためのケーススタディの開催</li> <li>・ 様々な支援団体等への研修機会の提供</li> <li>・ 行政における実態調査、周知活動の実施</li> </ul> |
|---------------|---|

| 事業名称             | 事業内容  | 目的/期待効果・KPI           | 実施時期   | 発注先           |
|------------------|---|-----------------------|--|---------------|
| ① ケーススタディ        | 孤独・孤立協議会参加団体の、支援事例や連携実績などを元にケーススタディを開催し、支援関係者の支援の質の向上や支援の輪の拡大につなげる。(参加者やケーススタディの概要はp.68参照のこと) | 支援者同士のケースを通じた連携可能性の検討 | √<br>12月13日実施  | 委託なし          |
|                  |   | 成果検証結果                | 貴重な機会であったとの意見と開催方法の見直しに関する意見が得られた  |               |
| ② 市民向けシンポジウム     | 孤独・孤立の問題に対する理解を促進するために、孤独・孤立対策に関する著名な有識者による講演会を開催する。  | 市民に孤独・孤立について知ってもらうこと  | √<br>2月13日実施   | (株)FROMワン     |
|                  |   | 成果検証結果                | 孤独・孤立の問題に関する講演について多くの前向きな評価が得られた   |               |
| ③ インターネット広告による周知 | 市民の相談事や困りごとを言語化するとともに必要な支援を自動回答する「お悩みハンドブック」を、インターネット広告などにより周知する。                             | 支援サイトの認知向上            | √<br>1月～2月実施   | (株)グラフィア      |
|                  |   | 成果検証結果                | SNS広告より、検索エンジンでのネット広告の方がクリック率は高かった   |               |
| ④ 研修会の開催         | 支援関係機関の支援活動に、孤独・孤立の予防につながる気付きや、新しい視点を取り込んでもらうため、「ゲートキーパー」「伴走型支援」などの研修会を開催。                    | 支援者の能力向上              | √<br>1月～申込<br>√<br>2月8日～10日実施  | アソウ・ヒューマンセンター |
|                  |   | 成果検証結果                | 様々な分野の研修を受けることが出来たことや、講師の選定について非常に高評価であった。継続的な開催を望む声が多く聞かれた                  |               |
| ⑤ ひきこもり等実態調査     | 令和4年2月に実施した「生活状況に関する実態調査」の精査・分析を実施する。   | ひきこもりによる孤独・孤立の実際把握    | √<br>1月～2月実施   | アソウ・ヒューマンセンター |
|                  |   | 成果検証結果                | 北九州市にも全国調査と同様にひきこもり層がいることが把握された。ひきこもり層にも多様性が見られたため引き続き情報を収集しステージに合った支援が必要である |               |
| ⑥ 孤独・孤立の実態調査     | 令和3.12に国が実施した孤独・孤立の実態把握に関する調査と同様の調査を、市民を対象に実施する。  | 全国と比べた北九州市の状況の把握      | √<br>12月発送準備<br>√<br>1月発送  | アソウ・ヒューマンセンター |
|                  |   | 成果検証結果                | 孤独の属性として、独居や仕事がないなどの生活面での特徴や、40代、80代以上での孤独の割合が高いといった結果が得られた                  |               |

#### 7. 次年度以降に向けた事業等の案 ※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ(あれば)を列挙

- ・ ケーススタディや研修会は継続開催が必要と考えており、次年度以降も実施する予定。
- ・ 支援が必要な人が、NPO法人等支援団体とつながりやすい環境を創出するため、お悩みハンドブックに支援団体情報を掲載することなどを検討中。

#### 8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- ・ 協議会設立時の新聞報道（令和4.2.23西日本新聞、令和4.2.22毎日新聞）

| 4. 連携PFの行程および実務上の留意点 |              |  |
|----------------------|--------------|--|
| (ア) 初期段階             |              |  |
| ①                    | 主担当部署の設定     | <p>■<u>庁内連携の会議を発足。アウトリーチについては「いのちをつなぐネットワーク」を活用</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保健福祉局地域福祉部地域福祉推進課で、孤独・孤立対策を担当している。</li> <li>既存の「いのちをつなぐネットワーク」についても地域福祉推進課の担当となっており、今回の協議会に際しては令和4年度から地域福祉推進課に新設された孤独・孤立対策担当ラインが担っている。</li> </ul>   |
| ②                    | 地域の現状把握      | <p>■<u>保護行政の課題が浮き彫りとなり、平成17年以降に孤立対策に取り組む</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成17～19年に生活保護相談者、生活保護が打ち切りになった人の孤立死が複数発生した。保護行政検討会において、「既存の制度・仕組みでは防げない」という最終報告がなされたことを踏まえ、「いのちをつなぐネットワーク」が平成20年に設立された。</li> <li>「いのちをつなぐネットワーク」は“見つける”・“つなげる”・“見守る”ことを目的として地域の企業等が通常業務の傍らで、地域で困っている人を見つけるセーフティネットの役割をもっている。</li> </ul>  |
| ③                    | 連携PFの運営形態の検討 | <p>■<u>NPO等への意見聴取を踏まえ既存の「いのちをつなぐネットワーク」とは別途に、新たなPFを設立</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年の9月に第6回孤独・孤立に関するフォーラムが北九州市にて開催されるにあたって、NPO等への意見聴取が実施された。その中で、官民共通の縦割りの解消、支援をつなげていく仕組みを作ること、支援者同士が顔の見える関係を構築することが必要だ、との意見が出された。</li> <li>上記の意見から、新たに官民が横並びで、顔の見える関係を構築するPFの必要性が確認された。</li> <li>既存の「いのちをつなぐネットワーク」事業については、“見つける”・“つなげる”・“見守る”ことを目的として地域の企業等にできる範囲での協力を仰ぐものであるのに対して、新たなPFは官民共通の縦割りの解消、支援をつなげる仕組みの構築、支援者同士の顔の見える関係性の構築を目的としている。NPO等への意見聴取の中でそういった機能が不足していることが確認され、別途組織として立ち上げられた。</li> </ul>  |
| (イ) 準備段階             |              |  |
| ①                    | 連携PFの企画・設計   | <p>■<u>目的は共有するが、開催頻度や実施事項は決めないことで形骸化を防ぐ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連携PFでは、会長や座長は置かずに、あくまでもフラットに横の関係が築けるようにされている。今後は幹事会を設けて、自立していくことができるように調整を進められている。PFの参加組織が増えた際にも、団体のメンバー全員が顔見知りでなくても、「その団体のメンバーのうち誰か一人でも知っているから相談しやすい」、というような緩やかな関係性を構築することを目指している。</li> <li>連携PFの設立に当たっては、趣旨等は定めて共有するものの、開催頻度等は設定しないことで、意味のない会議が行われて形骸化していかないように工夫がなされている。参加者の負荷を下げることで継続、自立の道が模索されている。</li> <li>自立的に開催されるに至っても、開催場所の確保など行政側でできることは実施することが想定されている。行政の役割としては、行政も1メンバーとして参加し、それぞれの活動状況を知ること、行政関係の最新の情報や動向を参加者に共有すること等が考えられている。また、現在は、スムーズに連携PFが進められているが、今後、参加団体が増えた際には、団体間のすれ違い等が生まれることも想定されるため、そのような場合の調整を行政が担うことが考えられている。</li> <li>連携PFは、あくまでもつながりを構築する組織であり、現時点では何らかの事業を行ったり、行政に要望を出したりすることは想定されていない。“決”を取るといったこともしない。実施報告等を求めることもしない。</li> </ul> |
|                      | 運営方針         |  |



|              |         |  |
|--------------|---------|--|
|              | 主要機能・施策 | <p>■<u>連携PFの実施内容はNPO等の意見を重視して決める予定、今年度はケーススタディを開催</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連携PFの実施内容は都度決めるものとされ、設立時点では決められていない。PFに参加するNPO等を対象に、どのような取組を実施したいか意見聴取を行うなど、求められる取組を実施することが想定されている。今年度は実際のケースにおいて連携できる関係性の構築を目指すにはケーススタディが必要との協議会参加者の意見を踏まえ12月13日にケーススタディが実施された。</li> <li>12月13日のケーススタディは、協議会に所属する各団体の支援関係者31名が参加した。NPO法人老いを支える北九州家族の会の副理事長である蒲地氏が登壇し、自身が経験した老々介護の経験を紹介した。</li> <li>実施後の参加者のアンケートでは、「老いを支える北九州家族の会の活動がわかった」「立ち会う機会のない貴重な体験を聞いた」といった感想が得られた。さらに今後には「支援者側の話を聞いてみたい」「もっと様々な事例をききたい」「話を聞いたうえで、参加者でグループワークをしたい」といった意見が出されたため、今後の実施内容に反映される予定である。</li> <li>連携PFでは、PFへの参加の有無を問わずに支援者が参加できる合同研修会が実施された。これにより自前での研修が実施できない支援団体等に対しても研修の機会を提供するとともに、PFの存在の周知を進めた。NPO相互のつながりや、社協のつながりから、PFに参加していない多くの支援者が研修会に参加した。</li> <li>「北九州市版お悩みハンドブック」を作成し、連携PFに参加する支援団体等を通じ、市民への周知を推進した。お悩みハンドブックやPFについては、「いのちをつなぐネットワーク」の会合においても、情報の周知を進めている。</li> </ul> |
|              | 庁内      | <p>■<u>8局12課の課長連携会議を構築し、自治体内の横連携を目指す</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年7月に孤独・孤立対策推進のための庁内連携を目的として、庁内関係課長連携会議（8局12課）を発足し、市役所全体として総合的かつ効率的な孤独・孤立対策が検討・推進されることとなった。</li> <li>庁内連携にあたっては、相談窓口の一元化といった連携ではなく、どこに相談しても必要な支援にたどり着けることが重要という考えのもと、連携を進めている。</li> </ul>  |
| ② 連携PF参加者の検討 | 外部団体    | <p>■<u>福祉や教育など関係する部署とつながりのあるNPOから連携を開始</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連携PF（協議会）の設立にあたっては、福祉や教育など孤独・孤立に関係すると考えられる所管部署から普段からつながりのあるNPO等の紹介を得て、現在の協議会所属の15団体が選定された。特に熱量のある団体については、初期から参画してもらうことが望ましいと考えられた。</li> <li>NPO等の関係団体においては、市から意見を求められる形で声がけを受けたため対応しやすかったとの声もある。孤独・孤立支援は“解決”をするものではなく、継続的な支援をするものであるため、日々支援を提供するNPOと、自治体が横並びで連携することが重要であると考えられた。自治体とNPOはできることが異なる対等な立場であるという認識を共有することも重要であるとの声もある。</li> <li>まずは、試行的であっても参加団体等の動きやすさを重視して、連携PFの活動は15団体で開始された。一方で、未参加のNPO等からも連携PFへの参加希望する声も少しずつ出はじめているため、今後、連携PFへの参加団体を増やしていくことが検討されている。ただし、むやみに拡大して破綻することを防ぐために、参加団体同士が互いを把握できるような拡大のスピード感が重視されている。</li> </ul>  |

(ウ) 設立段階

①

連携PF内での  
連携・協業

■お互いのことを知ることで支援をつなげる関係性を構築していく

- ・ 就労を支援すれば、次には就労先での人間関係の問題が出てくるように継続的に支援するためには、支援をつないでいく必要がある。NPO間でも横のつながりはあまりなく、お互いに紹介できるような関係性を作りたいといったニーズがある。連携PFにおいても自己紹介や、ケーススタディを実施して互いの取組の紹介をするなど、顔の見える関係性を構築することが目指されている。
- ・ 連携PF（協議会）参加者が1対1で、バイネームで顔の見える関係を構築することが重視されている。そのようなつながりが増えていけば、お互いに紹介がしあえると考えられている。
- ・ 連携PFに参加するNPO主催のイベントに、他のNPOが参加するなど、連携PF（協議会）外でも交流を促進することで顔の見える関係性の構築が進められている。

②

域内住民・関係団体への情報発信

■支援者には連携PFの認知を高めるとともに、市民には「お悩みハンドブック」を周知していく

- ・ 研修会を通じて、支援者に連携PFの周知が進められている。今年度の研修会においても、多くの支援者が研修会に参加し、PFを紹介することができた。市の広報等に拠るもののみならず、PFに参加しているNPO等を通じてネットワークが広がったり、社会福祉協議会関係のつながりでネットワークが広がったりすることが進んでいる。
- ・ 研修会を続けていくためにも、今後はPF参加NPO等に謝金を支弁することはやめて、研修会講師への謝金に充当することが検討されている。NPO等からも、自らが他のNPO等とつながっていくメリットを享受できるため、参加謝金がなくなることについて反対の声はない。
- ・ 市民向けには「お悩みハンドブック」の周知が進められている。試行的事業の一環として、「お悩みハンドブック」のアクセス用QRコードが掲載された除菌用アルコールスプレーをノベルティとして制作し、シンポジウム等で配布した。現場に出向く支援者からは、チラシ等よりも携行しやすく、必要な時にすぐに「お悩みハンドブック」を調べられ、デジタルツールの活用促進に役立ったといった声がある。
- ・ 市民が相談しやすいように、「いのちをつなぐネットワーク」などによる緩やかなアウトリーチが推進されている。
- ・ 連携PFは基本的には支援者側のつながりを強化する取組であり、支援という側面において、積極的な情報発信は必ずしも必要ではない。一方、孤独・孤立の問題に対する機運の醸成という観点では、孤独・孤立協議会が一体となって情報発信を行うことは大変意義深いものと考えている。

③

優先的に取り組む課題・今後の方針

■連携PFではテーマを絞らず支援者側の顔の見える関係を構築していく

- ・ できるだけNPO等に負荷をかけずに意味のある会を開催すること、官民共通に縦割りを打破すること、自律的に連携PFが継続していくように設計することが直近の課題と認識されている。連携PFの取組については、負荷が少ないだけでなく参加した意義を感じるものである必要があるため、NPO側の意見を聴取しつつ、取組内容を都度検討していくこととされている。
- ・ 顔の見える関係を現在の連携PFメンバーにおいて構築して終わりではなく、そのつながりを広げていく必要性があると認識されている。新たにメンバーをPFに加える際には、新たなメンバーが従前のPF参加者を知るための仕組みが必要であり、現在検討がなされている。



## コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携PFの重要性～

### 認定NPO法人 抱樸

- ・ 認定NPO法人抱樸は、1988年から活動を開始し、2000年にNPO法人化。
- ・ 困窮者・ホームレス支援、子ども・家族支援、居住支援、就労支援など包括的な支援を行っている。

#### 連携協議会は、市も含めて構成団体が横並びで議論する場である必要がある

- ・ 連携PFでは行政も含め、平場で議論することが重要である。現在はまだ、市が呼びかけた場に支援団体が参加するという形になっているところもあるため、今後、よりフラットな関係性が作れるようにしていく必要がある。
- ・ 北九州市から声かけをもらった際には、対等な関係で声かけをしてもらえたため、対応しやすかった。
- ・ 市にできること、市にはできないこと、NPOにできること、NPOにはできないこと、それぞれあるので、両方で補完し合って強固なセーフティネットを築いていきたい。

#### 行政だけでなく、民間の支援団体も縦割り

- ・ 実は行政だけでなく民間の支援団体も縦割りで、例えば子どもを対象とする支援団体はそれ以外の問題に気付いたとしても、アプローチしにくい、対応が難しいという問題がある。
- ・ このようにそれぞれの支援団体が分野ごとに、あたかも「大陸」のように存在しているが、それらの「大陸」を結ぶ「海」のようなものが連携協議会だと思う。まさにそれぞれの支援団体がつながるための仕組みが作られている。
- ・ 実際、他の団体と横連携するときには、相手の顔が見えていることが重要になってくる。これはどのNPOがどういった活動をしているか知っているだけでなく、バイネームで誰がどういった活動をしているか知っている状態になる必要がある。連携PFが有機的に機能していけば、「この分野であればあの人に聞いてみよう」という関係を構築していくことができるだろう。
- ・ その意味では、ケースワーク等を行う研修を通じて、団体の代表者ではなく、スタッフレベルで交流して、横のつながりを作っていくことが重要である。

#### 問題解決型ではなく、伴走型のアプローチを

- ・ 孤独・孤立は、一つの問題を解決したらそれで終わりというようなものではないため、問題解決型ではなく、伴走型のアプローチをして、たとえ解決できなくても「ひとりにしない」社会を実現していかなければならない。
- ・ 伴走型支援という観点では、人の営み・日常という部分、問題が起こる前の部分が重要だが、そこを行政が対応するのは難しい。市民を巻き込んで、支援者目線ではなく、当事者目線で、ゲートキーパーを作っていく必要がある。
- ・ 抱樸では、地域をひとつの「なんちゃって家族」にするという考えで、人の営みに寄り添う活動を進めている。
- ・ また、「希望のまちプロジェクト」として、地域に暮らす人が共生する拠点施設をつくるプロジェクトを進めている。家族や雇用の在り方が変化している中で、市民が孤立せずにつながっている地域、「助けて」と言える地域づくりをしていきたい。

| 5.自治体等との打合せ記録一覧 |                         |                                     |             |             |
|-----------------|-------------------------|-------------------------------------|-------------|-------------|
| No.             | 日時                      | 打合せ相手団体                             | 出席者         |             |
|                 |                         |                                     | 打合せ相手       | NRI         |
| 1               | 9/30(金)<br>9:00-10:30   | 北九州市役所<br>保健福祉局<br>地域福祉部<br>地域福祉推進課 | 原田様、中江様、坂田様 | 橘、生駒、石垣     |
| 2               | 10/19(水)<br>15:30-17:00 | 北九州市役所<br>保健福祉局<br>地域福祉部<br>地域福祉推進課 | 原田様、中江様、坂田様 | 橘、生駒、石垣     |
| 3               | 11/14(月)<br>14:00-15:00 | 北九州市役所<br>保健福祉局<br>地域福祉部<br>地域福祉推進課 | 中江様、坂田様     | 橘、毛利        |
| 4               | 2/14(火)<br>13:00-14:30  | 北九州市役所<br>保健福祉局<br>地域福祉部<br>地域福祉推進課 | 原田様、中江様     | 橘、生駒、石垣、小木曾 |
| 5               | 2/14(火)<br>15:00-16:30  | 認定NPO法人 抱樸                          | 奥田様、山田様     | 橘、生駒、石垣、小木曾 |
| 6               | 3/17(金)<br>10:00-11:00  | 北九州市役所<br>保健福祉局<br>地域福祉部<br>地域福祉推進課 | 中江様、坂田様     | 橘、生駒、石垣     |

【自治体による従前からの取組】

■ いのちをつなぐネットワーク事業  
(取組概要)

「いのちをつなぐネットワーク事業」は平成17～19年にかけて生活保護受給者や打ち切りとなった人の孤独死が相次いだため、地域福祉の見直しとして平成20年から開始した取組である。

北九州市においては、「待ちの福祉」から「攻めの福祉」へと転換し、出前主義で地域の中に入り込み福祉ネットワークの充実・強化に取り組むこととした。市では、制度のはざまに陥る人が出ないように既存の制度を担当しない職員を配置したり、地域の見守りを細かく実施できるように各区役所に「いのちをつなぐネットワーク担当係長」を配置したりして、行政から地域に出向き、民生委員や福祉協力員などと連携していく体制を構築した。

「いのちをつなぐネットワーク」では、自治会や民生委員、老人クラブなどの地域住民や地域との関係性が深い企業、NPOなどと連携し、地域で「見つける」・「つなげる」・「見守る」をキーワードに、地域のセーフティネットとして機能している。実際に新聞がたまっていることで衰弱した高齢者の発見につながった、集金の際に倒れている人を発見した、来店する顧客の体調悪化に気づき病院受診につながった、転倒した高齢者に自宅まで付き添い介護保険サービスの利用につながった、などのケースがある。

図表 いのちをつなぐネットワーク事業の紹介資料

**いのちをつなぐネットワーク**

いのちをつなぐネットワークとは？  
「いのちをつなぐネットワーク」とは、地域における既存の見守りの仕組みを結びつけ、別の目を届かせることによって、高齢者をはじめ、支援を必要としている人が社会的に孤立することがないよう地域全体で見守り、必要なサービスなどにつなげていくための取組みです。

**3つのキーワード**

- 見つける**：この町に高齢や高齢のひとが、必要な人がいないか、見守りを行います。
- つなげる**：この町に高齢や高齢のひとが、必要な人がいないか、見守りを行います。
- 見守る**：高齢や高齢のひとが、必要な人がいないか、見守りを行います。

**いのちをつなぐネットワーク 孤立死をなくす3か条**

住民や地域団体、関係団体、地域に根ざした民間企業、行政、関係機関  
地域全体ですべてのいのちを大切にするための

- 「見つける」・・・地域全体で困っている人に気づきます。
- 「つなげる」・・・支援できる人につながります。
- 「見守る」・・・できることから、見守りの輪に参加します。

いのちをつなぐネットワーク推進会議  
北九州市保健福祉局

---

**いのちをつなぐネットワークのイメージ**  
～地域で「見つける・つなげる・見守る」～

自治会 町内会  
友人・知人 近隣住民  
民生委員 児童委員  
福祉協力員 (社会福祉協議会)  
NPO ボランティア  
企業活動 (電気・ガス・水道) (配達事業者)

かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師  
介護・福祉 サービス事業者

支援の必要な人  
その家族

区役所・市役所の様々な部門  
いのちをつなぐネットワーク担当係長は、地域の福祉活動を活動主義でサポートします。  
地域の中で活動している人からご相談下さい。

警察・消防 関係機関

**各区分の担当窓口**

| 区    | 担当窓口   | 電話番号            |
|------|--------|-----------------|
| 小倉区  | 小倉区役所  | (代)093-331-1881 |
| 小倉南区 | 小倉南区役所 | (代)093-582-3311 |
| 小倉東区 | 小倉東区役所 | (代)093-951-4111 |
| 若松区  | 若松区役所  | (代)093-761-6321 |
| 八幡東区 | 八幡東区役所 | (代)093-871-0901 |
| 八幡西区 | 八幡西区役所 | (代)093-842-1441 |
| 戸畑区  | 戸畑区役所  | (代)093-871-1501 |

北九州市保健福祉局地域福祉部  
地域福祉推進課  
TEL. 093-582-2060

## 【本業務にて実施した試行的事業の詳細】

### ■ 市民向けシンポジウム（孤独・孤立対策に関する講演会実施業務）

#### （目的）

国が初めて実施をした「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査結果」で、孤独感に至るきっかけが「家族との死別」「心身の重大なトラブル」といったことであったように、孤独・孤立は人生のあらゆる場面において誰にでも起こり得るものであり、社会全体で対応しなければならない問題である。

本シンポジウムを通して孤独・孤立の問題を自分事として捉え、この問題に対する正しい理解の促進を図る。

#### （実施内容）

- ・ 令和5年2月13日に北九州市のホテルクラウンパレス小倉において、第11回北九州市いのちをつなぐネットワーク推進会議に合わせ、孤独・孤立に対する理解促進のための講演会を開催した。
- ・ 認定NPO 法人自立生活サポートセンター・もやいの理事長である大西連様にご登壇いただき、「孤独・孤立のこれから」というテーマで1時間の講演を実施頂いた。
- ・ シンポジウムに合わせて、「北九州市版 お悩みハンドブック」の広報活動として、アクセス用のQRコードの付いたノベルティの配布を実施した。

#### （実施結果）

- ・ シンポジウムには見守り部会で42企業、行政から70名、買い物部会で14団体と行政から23名の合計93名の参加者が参加した。
- ・ 大西代表からは、昨今の孤独・孤立の課題の特徴や実際にあった相談者のリアルな状況を紹介しつつ、誰にでも起こりうる問題として、日常から様々な機関、団体が連携していくことが重要であると示された。
- ・ 孤立については、今までも「いのちをつなぐネットワーク」で取り組んできたテーマであるが、孤独が新しいキーワードとして出てきており、これからも精力的に取り組んでいきたいといった声が見られた。

図表 シンポジウムの様子



### ■ 「北九州市版 お悩みハンドブック」のインターネット広告の実施

（「北九州市版 お悩みハンドブック」ランディングページ作成およびweb広告運用業務）

#### （目的）

孤独・孤立対策の推進にあたっては、孤独・孤立の問題を抱える当事者や家族等へ、様々な孤独・孤立に関する支援の情報を網羅的かつタイムリーに届け、孤独・孤立に至っても支援を求める声を上げやすい社会とすることが求められている。

本業務は、ウェブ上で孤独・孤立関連用語を検索する者及び支援関係団体に対して、web広告を活用し、「北九州市版 お悩みハンドブック」を積極的に周知し、支援をつなぎ、つなげていくことを目的とする。

#### （実施内容）



- ・ 「お悩みハンドブック」を普段の支援活動に活かしてもらうための広報活動としてGoogle及びYahoo! Japan、SNS等に「北九州市版 お悩みハンドブック」のインターネット広告を発出する。
- ・ 結果として、広告表示回数に対するクリック率などの成果を分析する。

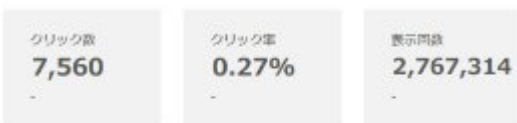
(実施結果)

- ・ インターネット広告を発出した約1か月間で7,560回のクリックがなされた。
- ・ 広告表示は2,767,314回実施されており、広告表示回数に対するクリック率は0.27%となった。
- ・ クリック率はGoogle広告が最も高く9.94%、次いでYahoo!広告で2.99%、Facebook0.62%という結果となった。ただし、広告の表示回数はTwitter、LINEで多く表示されており、2つのSNS媒体ではクリック率は高くないが、獲得件数では、40件以上の実績となっている。

図表 広告の実績レポート(抜粋)

■クリック数 & クリック率

クリック数 / クリック率 / 表示回数



■媒体別実績

クリック率 / クリック単価 / 獲得件数 / 獲得単価

| 媒体            | クリック率 | 獲得件数 |
|---------------|-------|------|
| Google 広告 検索  | 9.94% | 88   |
| Yahoo!広告 検索広告 | 2.99% | 62   |
| Facebook広告    | 0.62% | 4    |
| Twitter広告     | 0.14% | 40   |
| LINE広告        | 0.31% | 56   |
| Total         | 0.27% | 250  |



■ 支援者向け研修会の開催  
 (孤独・孤立対策 支援者向け研修会実施業務)

(目的)

孤独・孤立は、人生のあらゆる場面で誰にでも起こりうるもので、そうした状態になる前に対応する「予防」の観点が重要である。支援を求める声を上げやすい・声を受け止める・声をかけやすい社会に向けて、孤独・孤立についての理解・意識や機運を社会全体で高めていくことが必要である。

「声を上げやすい・声をかけやすい」社会の実現を目指し、孤独・孤立についての理解・意識を浸透させつつ、様々なステークホルダーを取り込み、相談者（相談を受ける人）になりうる層の機運醸成を図るため支援者向けの研修会を実施した。

(実施内容)

- 令和5年2月8日から10日の3日間にかけて開催した。受講者が介護・看護、子ども、貧困、障がいなど様々な支援活動を行う中で、孤独・孤立の予防につながる気付きや、新しい視点を取り込むことを目的とし、座学、グループワークなど様々な方式で計13の講義を実施した。

(実施結果)

- いずれの講義においても、受講者が真剣に聞き入り、終了後も個別に質問をするなど、自身の学びを深める機会として非常に有効な役割を果たすことができた。
- 実施後のアンケートからも内容に対する満足度の高さや、定期開催を希望する声が寄せられており、コロナ禍で課題が深刻化し、丁寧につながりをつくることの大切さが重視されている中において、支援する人々同士も情報共有を行う場が求められていることが分かった。期間中には報道機関も取材に訪れるなど注目度の高いイベントとなった。

図表 研修会の様子



左上：2日目「心の健康管理～メンタルヘルスを学ぶ」講義中の様子

左下：3日目「ゲートキーパー研修」講義中の様子

右上：1日目「傾聴と対話」講義でのグループワークの様子

図表 研修会のチラシ

# 北九州市 孤独・孤立対策 支援者向け研修会

## テーマ

普段の支援に新たな視点を  
～孤独・孤立の問題は予防できる～

**日時** 令和5年2月8日(水)～2月10日(金)

**会場** 北九州市小倉北区浅野三丁目8-1  
AIM3階 314・315会議室

**定員** 各講座 75名(先着順) **受講料** 無料

**申込期間**：令和5年1月4日(水)～1月20日(金)  
裏面のカリキュラムから選択して受講することができます！

### 【お申込み・問い合わせ先】

右のQRコードから電子申請システムでお申し込みください。⇒  
TEL：093-582-2080  
北九州市保健福祉地域福祉推進課 孤独・孤立担当



## 研修カリキュラム

**2月8日(水)** 受付：8:30～9:00

| スケジュール      | テーマ(内容)                             | 講師                                     |
|-------------|-------------------------------------|--|
| 9:00～9:15   | オリエンテーション                           |  |
| 9:15～10:00  | 孤独・孤立対策の現状                          | 保健福祉課 孤独・孤立対策担当 渡田 克博                  |
| 10:00～11:40 | ※ コロナ禍で顕在化した<br>生きづらさを感じる若年女性の課題と支援 | (一財)リーディング・プロジェクト360度 代表 尾崎由香子 佐藤 大志 員 |
| 11:40～12:00 | 昼食と対談                               | (社) 北九州のたのしみ 代表 藤原 真子                  |
| 12:00～13:40 | 生きづらさを感じる人たちの理解<br>～共存と自衛行為～        | 北九州自立精神発達センター 代表 佐藤由香子 宇田 真士           |

※ 本カリキュラムは、福岡県福祉実務者研修所「福岡県福祉実務者研修所」に寄り添った取組を支援策として実施

**2月9日(木)** 受付：8:30～8:50

| スケジュール      | テーマ(内容)                       | 講師                                  |
|-------------|-------------------------------|-------------------------------------|
| 8:30～9:20   | 一歩踏み込んで接するために<br>～スタッフのつづの語り  | 北九州リーディング・プロジェクト360度 代表 尾崎由香子 佐藤 大志 |
| 9:20～10:00  | 「ひとりにしない」という支援<br>～伴走型支援とは何か～ | NPO法人 花博 理事長 渡田 克博                  |
| 10:00～11:40 | 心の健康支援<br>～メンタルヘルスマスター～       | 産業医科大学 精神科 講師 藤原 真子                 |
| 11:40～12:00 | 発達障害への気づきと対応方法                | 北九州自立精神発達センター 「つづ」センター長 渡田 克博       |
| 12:00～13:40 | 困難を抱える人への救済支援                 | 北九州子ども総合センター 「つづ」センター長 渡田 克博        |

**2月10日(金)** 受付：8:50～9:20

| スケジュール      | テーマ(内容)                           | 講師                                  |
|-------------|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 8:50～9:40   | オンラインアローとは<br>～支援のやり取りのための注意点～    | 北九州リーディング・プロジェクト360度 代表 尾崎由香子 佐藤 大志 |
| 9:40～10:20  | 「見えない」制作者と向き合うため<br>～大人や女性ののさこもり～ | 北九州リーディング・プロジェクト360度 代表 尾崎由香子 佐藤 大志 |
| 10:20～11:00 | 大切な人を支えたい<br>～グートキーパー研修～          | 北九州自立精神発達センター いのちとこころの支援部長 藤原 真子    |
| 11:00～12:40 | 児童虐待の現状と支援の中での気づき                 | 北九州子ども総合センター 児童虐待対策担当 渡田 克博         |

## ■ 生活状況に関する実態調査集計業務

### (目的)

令和3年度に北九州市が実施をした「生活状況に関する実態調査」の集計結果を、平成30年度に内閣府が実施をした「生活状況に関する調査」と同じ集計方法で再集計することで、国の全国調査と比べた北九州市の傾向・特色などを把握することを目的とする。

### (実施内容)

- ・ 令和4年2月に精神保健福祉センターで実施した「生活状況に関する実態調査」について、全国調査と比べた北九州市の傾向、特色等を比較分析した。
- ・ また、結果や実施方法について、有識者の意見聴取を行い、情報の整理方法等についても検討を実施した。

### (実施結果)

- ・ ひきこもりの状態にある人の把握や傾向について整理した。有識者コメントを踏まえ、下記の分析がなされている。(以下の考察は有識者の意見を踏まえたものである。)
  - 全国調査と同様に北九州市でもひきこもり状態の人が多くいることがデータとして示された。
  - 専業主婦・主夫が多いことや40代以上の出現率がその他の2倍以上になっていること等に特徴がある(無回答だった人も含めて結果については留意が必要である)。
  - 今回の結果で、内閣府調査において言及されているひきこもり状態の人が北九州市にもいることがデータとして示された。
  - ひきこもり層にはステージの違いがあることが想定されるが、その詳細は把握されておらず、支援が必要な人がどんなステージにいるのかどういった支援が必要なのかについては、さらに情報把握および検討が必要であることがわかった。
  - 結果の冊子は支援の際の基礎情報として活用するために関係団体に配布された。

### 図表 結果冊子

生活状況に関する実態調査  
(ひきこもり等実態調査)  
報告書

令和5年3月

北九州市立精神保健福祉センター

- ・ 調査分析の実施にあたっては、宮崎大学の境泉洋教授へのヒアリングを開催している。以下に、ヒアリングで得られた知見について一部を抜粋する。
  - 集計分析について
    - ◇ 広義のひきこもり群について、集計時に無回答だった方を含めている点には留意が必要である。ひきこもり状態の可能性がある方を広くとっていることになる。
  - 結果についてのコメント
    - ◇ 専業主婦・主夫が多いことが印象的である。
    - ◇ 40歳以上の出現率がそれ以外の2倍以上になっている点もインパクトがある。
    - ◇ 相談したいと思わない人が56%程度いることもインパクトのある結果である。
  - 結果を踏まえた今後の対応について
    - ◇ ひきこもりの状態によってステージが異なり対応方法が異なる。本人のペースを認められる体制づくりが必要である。
      - ターゲット層の違いによって支援の方法論を検討する必要がある。
      - 単純に職の斡旋だけで済む人もいるがそれだけではうまくいかない人もいる。重度の方ばかりを想定しているとそういった方への支援が遅れることもある。最初は就労を促して無理なら丁寧に支援をしていくという風に段階的にしても良いかもしれない。
      - ひきこもりの層について知見が得られていなければ、ハローワーク等認知度の高い機関から情報が取得できるような仕組みができると有効かと思う。
    - ◇ 北九州市でも全国調査と同様にひきこもり状態の人がいることがデータとして示された。北九州市のひきこもり支援を推進する上ではいいデータが取得できたかと思う。
    - ◇ 今回の調査結果は条件で絞り込んだりできるものではない。わからないということもきちんと伝えた方がいい。例えば、ひきこもり群の中で支援が必要な人がどれ程いるのかは不明である。

## ■ 人々のつながりに関する基礎調査業務

### (目的)

北九州市における孤独・孤立に係る実態の全体像を概括的に把握するため、北九州市民を対象に、令和3年度に内閣官房が実施をした「人々のつながりに関する基礎調査」と同じ内容のアンケート調査を実施し、全国調査と比べた北九州市の傾向・特色などを把握する。

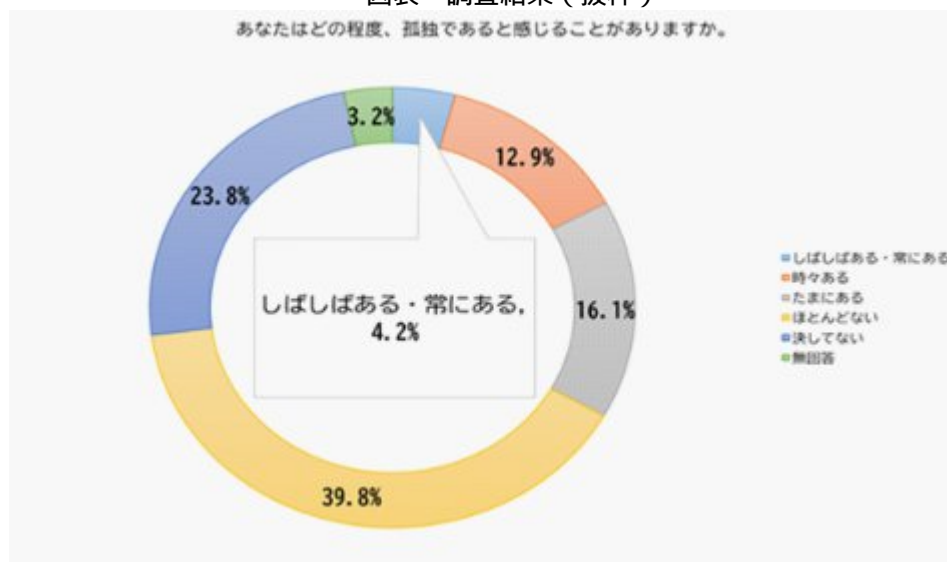
### (実施内容)

- ・ 北九州市民で満16歳以上の個人、住民基本台帳を母集団とした無作為抽出法により選定した7,000人を対象として、郵送またはオンライン（WEBフォーム）によりアンケート調査を実施した。
- ・ 調査票は令和3年度に内閣官房が実施をした「人々のつながりに関する基礎調査」と同じ質問項目で作成した。

### (実施結果)

- ・ 質問用紙1,691件、WEB回答488件の合計2,179件（回収率31.1%）の結果が得られた。
- ・ 全体の結果では、属性や生活の状況とともに、孤独を感じる頻度や心身の健康状態などが分析、整理された。
- ・ 全体の4.2%にあたる孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人では、同居家族がいない、相談相手がないといった状況や、心身の健康状態が良くないといった状況とともに、仕事がない、世帯年収が200万円を下回るといった生活の状況、年齢では、40代、80代以上が最も多いといった属性の傾向が分析されている。

図表 調査結果（抜粋）





■ 孤独・孤立対策に関するノベルティ制作業務

(目的)

孤独・孤立の問題を自分事として捉え、この問題に対する正しい理解の促進を図るため、市民等に配布するノベルティを作成する。

(実施内容)

- ・ 北九州市の相談窓口が紹介されている「北九州市版 お悩みハンドブック」のアクセス用QRコードがついたアルコールスプレーを作成する。

(実施結果)

- ・ シンポジウムなどにおいてアルコールスプレー 50 個をノベルティとして参加者に配布した。
- ・ 現場に出向く支援者からは、アルコールスプレーがチラシ等よりも携行しやすく、必要な時にすぐに「お悩みハンドブック」にアクセスすることができる点が好評であった。

図表 調査結果(抜粋)

